
仮面ライダーキバ～Chain of Destiny～

asuka1419

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーキバ\Chain of Destiny\

【Nコード】

N9487Z

【作者名】

asuka1419

【あらすじ】

仮面ライダーキバの世界と、作者のオリキャラが織り成すストーリー。

今、運命の鎖を解き放て！！

あらすじと注意（前書き）

キバの小説を書いてみました。
これから読んでくださる皆さん、
よろしく願います。

あらすじと注意

ここはとある街・・・。

外見は少し大きめの館。

しかし、中に住むのはたった一人。

いや、正確には、一人と二匹。

製作者不明のバイオリン、ブルーアイズ。

その音色に導かれ、

たてがある

館薫は異形の存在、

仮面ライダーキバへと変身する。

いま、運命の鎖を解き放つ時！

キバ「静寂なる夜の支配者・・・、仮面ライダーキバ！！」

キバット「キバツて！」

キバ「いくぜ！」

この物語は、作者のオリキャラと、キバの世界の住人たちが織り成すストーリーです。

あらすじと注意（後書き）

不定期更新です。

01: ウェイクアップ! 音色に導かれ part 1 (前書き)

いよいよ始まります!

01:ウェイクアップ！音色に導かれ part 1

ここはある館。見た目はかなり大きめだが、住んでいるのは、たった一人。

いや、正確には、一人と一匹。

『　　』

聞こえてくるのはバイオリンの音色。すごく透き通った音色。弾いているのは、ショートカットの大人。男か女かわからないその姿。

大学生、たてがある館薫は、同じく大学生の紅渡くれないわたるにバイオリンを習っていた。

『ポロン』

薫「ふう・・・。」

一息ついて、バイオリンを降ろす。

渡「僕が教えることはもうないってぐらいに、すばらしい演奏でした！」

薫「あんたほどじゃねえよ。演奏はあんたの方が上だ。」

褒め称える渡に、はにかみながら言う薫。

しかし・・・。

？「そうそう。演奏だけじゃなく、容姿も渡の方がず～～～～っと、上だ。」

一緒に渡と演奏を聞いていた竹林望が、たけはやしのぞむ悪態をつく。

薫「んだとゴラア。」

ケンカ上等。幼馴染とはよく口げんかをし、必ず勝っている薫は、その幼馴染、望をにらみつける。

ちなみにこの3人、同じ部活に入っている。『バイオリン愛好会』、渡が作ったこの愛好会、否、部活に薫は即入部した。望はというと、入りたい部活がなかったから入っている。

渡「そういえば、明日は登校日ですよ。確か、宿題がありましたよね？2人共。」

薫「俺はやつたぜ。お前は？望？」

満面の笑みを浮かべながら言う2人を見て、大量の汗を流す望。

渡薫「貸しませんよ？」

望「そんなあゝ！！」

こうして今日もいつもの1日が過ぎようとしていた。
はずだった。

01: ウェイクアップ! 音色に導かれ part 1 (後書き)

part 2 に続きます。

01:ウエイクアップ！音色に導かれ part 2（前書き）

時は移り、1986年です。

01:ウェイクアップ！音色に導かれ part 2

<1986年>

時は移り、1986年。この時代に生きる人々の中で、少しずつ、しかし確実に異変が起きていた。

友里「 母さん。」

ひっそりとしたところにひとつだけある墓。その前にしゃがみ、手を合わせている女性は、麻生友里^{あそゆり}。ある事件で、母親を目の前でなくした悲劇のヒロインである。

？「よお、友里。また墓参りか。偉いな、お前は。」

？「そうだろう？ なんだって、俺の運命の女だからなあ、友里は。」

友里の元へ、2人の男性がやってきた。一人は青い半そでポロシャツの袖から白い長袖を出している男性。下はジーンズである。もう一人は、ファスナーを閉めずに中のシャツを見せ、下にはジャージ黒という個性的な男性。

友里「藍生^{あおい}、音也^{おんや}・・・。」

2人に気づいた友里は、立ち上がり、2人の元へ歩く。

藍生「今日は月命日だからな・・・。」

音也「泣くなら俺の胸で泣け、ほら、ほらほら。」

音也が上着を開き、胸を突き出し友里に迫る。それを止める藍生。そんな漫才コンビをみて軽く吹き出す友里。

音也「よし、笑った。やはりお前は笑顔が一番似合う。」

藍生「それには俺も賛同する。女性には笑顔が一番だよ！」

笑いあふれる3人。そんな3人に、影が忍び寄る・・・。

<2008年>

『』

2人が帰った後もバイオリンを弾く薫。今弾いているのは、ブルーアイスと呼ばれる製作者不明のバイオリンである。

薫「誰が作ったんだろう……。ブラッディローズとは違う、安らかのこの音色。けれど、バイオリン自体はブラッディローズの方が上なんだよなあ……。」

ブルーアイスを見つめながら、つぶやく薫。

？「俺もわかんないんだよね。そのバイオリンを作ったのが誰なのか。」

パタパタと、羽を羽ばたかせながらやってきたのは、黄金の蝙蝠。

薫「キバット……。」

その蝙蝠はキバットバット？世。キバット族に生まれた誇り高き蝙蝠である。

薫「俺も、このバイオリンと、ブラッディローズを超えるバイオリンを作るぞー！」

キバット「その意気だぜ！薫うー！」

薫「おっしやあ！やったるぜー！」
しかし。

『ポロン・・・ポロン・・・』
「ー！ー！」

突然、ブルーアイスが音を奏で始める。それを聞いたキバットと薫は、外へ飛び出していった。

そとでは怪物が人を襲っていた。
ファンガイア

01:ウエイクアップ！音色に導かれ part2（後書き）

part3に続きます。

part3は戦闘です！

01: ウェイクアップ！音色に導かれ part 3 (前書き)

今回は戦闘パートです。

01:ウェイクアップ！音色に導かれ part 3

<1986年>

音也「ぐあっ!!」

藍生「音也！大丈夫か!？」

音也「ああ……。くそつ、化け物め!!」

音也と藍生は戦っていた。突如現れた怪物、ファンガイアに生身でファ「お前らのライフエナジーももらう……。」

絶体絶命のピンチ!!

<2008年>

女性「きゃあ!？」

倒れる女性。その背後には、吸命牙が……。

女性「あっ!？あ……。あ……。」

体がガラスのように透明になり、倒れ、粉々に砕け散ってしまった。ファ「やはりうまいな、ライフエナジーは……。」

首や顔にステンドグラス状の模様が浮かび上がっている男。その姿は瞬時にしてファンガイアに変身した。

そこへ……。

薫「……。ファンガイア!」

バイクに乗った薫が到着した。

薫「キバット!」

キバット「おう!!」

どこからともなく、キバットが現れ、薫の手に収まる。

キバット「キバっていくぜ!ガブッ!!」

薫の手に噛み付き、薫の顔にステンドグラス状の模様が現れ……。

薫「……。変身」

腰に巻きついた鎖はベルトになり、キバットをそこへ装着する。す

ると、薫の体は鎖でいっぱいになり、その鎖がはじけとんだとき、薫の姿は変わっていた。

顔はジャック・オ・ランタンのように、その目は黄色く光っている。両肩、右足には鎖が巻かれていた。この異形の姿を、知っている人間や、ファンガイア達はこの呼ぶのだが。

ファ「お前・・・何者だ!？」

キバ「静寂なる夜の支配者・・・仮面ライダー、キバ!!」

キバット「(厨二くせえ・・・)」

キバ「キバットお前後で折檻。」

<1986年>

友里「音也、藍生!これを使え!!」

投げ渡されたのは、銃と2本の剣。彼らはファンガイアハンターなのだ。友里と音也は銃を使った攻撃が、藍生は剣を使った近距離攻撃が得意である。

音也「つしゃあ!ここからが本番だ、いくぞ、藍生、友里!」

友里「お前が仕切るな。まだ行けるか?藍生。」

藍生「ああ。俺が近距離攻撃で仕掛ける。その隙を付け。」

音也「俺の心配もしてくれよ、友里。」

ファ「何をこちゃこちゃといっている!!」

他人から見れば漫才をしているようにしか見えない3人。その漫才を見て、イライラが限界にまで達したファンガイアが突っ込みを入れる。

藍生「今から倒してやるから、安心しやがれ。」

音也「そうだ。俺たちのコンビネーションを見るといい。」

剣を構える藍生と、余裕たっぷりの音也。人間対ファンガイア。勝つのはどっちか。

<2008年>

キバ「ハッ、ラァッ!!」

けりやパンチを駆使し、ファンガイアを追い詰めていくキバ。

キバット「薰う! やっつけようぜ!」

キバ「ああ!」

ベルトから、赤色の笛を取り、^{フエッスル}キバットにくわえさせる。その笛を

キバットが吹き・・・。

キバット「ウエーイク、アープ!」

『』

フエッスルがなり、辺りは真っ暗になる。そう・・・、夜に。

キバ「はあ!」

鎖の外れた右足を高く上げるキバ。そのまま飛び上がり・・・。

<1986年>

藍生「はっはっ!」

剣でファンガイアを斬りつける藍生。

音友「「せいっ!!」!」

その後ろから銃で撃ちぬく2人。

ファ「こしやくな!」

ファンガイアはよろよると立ち上がる。

藍生「もう一息! とどめといきますか? 2人とも!」

音也「俺はOKだ。」

友里「私もだ!」

3人のコンビネーションが最高になったとき、ファンガイアでも打ち勝てない『絆』が生まれる。

藍生「はああああ!!」

最初に藍生が1本目の剣をファンガイアに突き刺す。

音也「ふん!」友里「はあ!」

藍生が避けた瞬間、目の前からファンガイアを襲ったのは、音也の放った銃弾と、友里の武器が変形した鞭。

ファ「ぐあああ!？」

藍生「ラストだ!」

ファンガイアの後ろから、藍生の声が響いた。振り返っても誰もいない。

ファ「・・・ッ!？」

代わりに、自分の胸を貫いた剣が見えた。

藍生「・・・消える・・・」

藍生が動かなくなったファンガイアにけりを入れる。そうして、ファンガイアは粉々に砕け散った。

<2008年>

キバ「はあああ・・・」

キバがものすごいスピードで蹴りの姿勢のまま飛んできた。

キバ「ダークネスムーンブレイクッ!」

ファンガイアにとどめが刺された。その衝撃で、コンクリートにも関わらず、ある紋章が入った。キバの紋章である。

ファ「ぎゃああ!」

断末魔を上げ、砕け散ったファンガイア。後には不気味な光だけが残った。光は空へと昇り、いつの間にか来ていたキャッスルドランに食べられた。

キバット「よくかんで食べよ」

「げえっぷ」

大きなげっぷをして、また空へと飛び去った。

薫「ふう」

変身するとき、空を見上げる薫。その目はどこか寂しそうだった。

01：ウェイクアップ！音色に導かれ part3（後書き）

次回予告

音也「素晴らしき青空の会・・・ねえ。」

藍生「一緒に入ってくれないか？」

キバット「おつふろゝ、おふろゝ」

薫「今入るよ。」

ファンガイア「その命、我がいただく！」

渡「え・・・！？」

木戸「カフェ「マル」ダムールへようこそ！」

恵「ゆつくりして・・・あら？」

02：ハーモニー 個性ある人々

運命の鎖を解放て！！

やっと書き終わった・・・。

第1話でもう疲れた・・・。

第2話をお楽しみに！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9487z/>

仮面ライダーキバ～Chain of Destiny～

2011年12月31日16時52分発行